

二次方程式ノ幾何學的理論ニ就テ

理學博士 小倉金之助

○二次方程式ノ幾何學的

理論ニ就テ

理學博士 小倉金之

歴史及び目的

第一章 定圓ヲ用フル方法

一ツノ二次方程式——直線又ハ點ニヨル表示——へッセノ變形法——圓ニヨル表示。

二ツノ二次方程式——判別式——聯立不變式——終結式——やこび式——重複やこび式——曲面上ノ曲線系ヘノ應用——ろばちえふすきー平面幾何學。

三ツノ二次方程式——對合ノ條件——へッセノ定理——ばすかるノ定理。

第二章 定球ヲ用フル方法

一ツノ二次方程式——直線又ハ圓ニヨル表示——判別式。

二ツノ二次方程式——聯立不變式——終結式——やこび式——ろばちえふすきー空間幾何學。

三ツノ二次方程式——ばすかるノ定理ノ擴張。最後ノ注意。

一元二次方程式(又ハ二元二次ノ同次方程式)ノ理論ヲ

幾何學上ヨリ解釋スル方法ハ、其ノ種類甚ダ多クシテ、一々玆ニ列舉シ得ベカラズ。本篇ニ於テ予ハ其ノ理論ノ一端ヲ、定マレル圓又ハ球ニ關スル幾何學ニヨリテ、系統的ニ且ツ平易ニ敘述センコトヲ試ミタルニ過ギズ。

本篇ノ根本思想ハへッセ Hesse ノ論文

Zur Involution. (Crelle's Journal 第63卷 1864年、又ハ全集、第515頁。以下コレヲへッセノ第一論文トシテ引用ス。)

Ein Uebertragungsprinzip. (Crelle's Journal 第66卷 1866年、又ハ全集、第531頁。之ヲへッセノ第二論文トシテ引用ス。)

特ニくろいん Klein 教授ノ有名ナル論文

Vergleichende Betrachtungen über neuere geometrische Forschungen (1872年。コレヲくろいんノ第一論文トシテ引用ス。)

ニ創マルモノニシテ、必ズシモ新ラシキモノニアラズ、其後

Klein, Eine Uebertragung des Pascalschen Satzes auf Raungeometrie Sitzungsberichte d. phys.-medizinischen Societät zur Erlangen, 1873年、又ハ Mathematische Annalen, 第22卷。コレヲくろいんノ第二論文トシテ引用ス。)

Wedekind Beiträge zur geometrischen Interpretation binärer Formen (Diss. Erlangen, 1875 年。コレヲうゑできんどノ論文トシテ引用ス。)

等ノ論文アリ、更ニ Clebsch-Lindemann, Vorlesungen über Geometrie, Bd II, Teil I, (1891 年、特ニ第 606 頁以下。)

ニ於テ其ノ一班的記載ヲ見ル。予モ亦拙論

Some theorems concerning binary quadratic forms and their applications to the differential geometry. (東北帝國大學理科報告、第一輯、第五卷、1916 年。コレヲ小倉ノ論文トシテ引用ス。)

外一篇ニ於テ此方面ノ定理ト其ノ應用トヲ與ヘタリ。

然ルニ此等ノ諸論文ノ敘述ノ方法ハ稍、高尚ナルヲ以テ、予ハ本篇ニ於テ其ノ主ナル定理ニ新ナル初等的證明ヲ與ヘ、最モ了解シ易キ簡明ナル説明ヲ加ヘ、更ニ前掲諸論文ニ見當ラザル二三ノ性質ヲ附加セントス。而シテ初等代數學ノ一般ニ通ゼル人々ニ取りテハ、拙譯るーしえーこんぶるーす、初等幾何學(コレヲるーし

えーこんぶるーすトシテ引用ス)

及ビ 〇ーもん、圓錐曲線解析幾何學(コレヲ〇ーもんとシテ引用ス)

ノミヲ參考シテ理會シ得ラル、様ニ努メタリ。從テ不變式論、函數論、射影幾何學等ニ互ル事項アリトスルモ、努メテ斯クノ如キ知識ヲ豫想スルコトヲ避ケタリ。

猶ホ單ニ本篇ノ要領ノミヲ會得セント欲スル讀者ハ、第 3、7、8、12、13、19ノ諸款ヲ省略スルモ可ナリ。

第一章 定圓ヲ用フル方法

第一節 一ツノ二次方程式

1. 實數係數ヲ有スル一元二次方程式

$$ax^2 + 2bx + c = 0$$

ヲ考ヘン。之ヲ同次式ニ化スル爲メニ、 $x = \frac{y}{z}$ トオケバ

$$ay^2 + 2by + cz^2 = 0$$

トナル。コノ左邊ノ二次三項式(二元二次式)ヲ f ニテ表ハス、即チ

$$f \equiv ax^2 + 2bxy + cy^2.$$

マタ與ヘラレタル二次方程式ノ根ヲ x_1, x_2 トセン。

吾人ハコノ二極メテ普通ナル二次方程式ノ解釋ヲ述ベテ、今後ノ豫備トナサント欲ス。

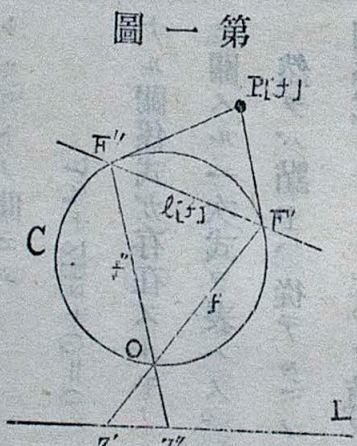
(i) 今一ツノ直線 L ヲ取り、ソノ上ノ任意ノ定マレル原點ヨリ其ノ直線上ニ於テ x_1, x_2 ノ距離ヲ測リテ得タル點ヲ P_1, P_2 、自身ニテ表ハサン。然ルトキハ二次方程式ガ與ヘラル、トキハ二點 P_1, P_2 ハ定マル。逆ニ、二點 P_1, P_2 ガ與ヘラル、トキハ、二次方程式ハ定マル。由テ一ツノ定マレル直線上ノ二點ヲ以テ一ツノ二次方程式ヲ代表スルモノト見做スコトヲ得ベシ。

(ii) 或ハ直線 L ヲ含ム一ツノ定マレル平面上ニ於テ L ノ上ニアラザル一定點 O ヲ取ル。 x_1, x_2 ヲ定點 O ニ結ブ一雙ノ直線ヲ l_1, l_2 トセン。然ルトキハ此二直線ヲ以テ二次方程式ヲ代表セシムルコトヲ得ベシ。

2. 直線又ハ點ニヨル表示

次ニ定點 O ヲ過ル一ツノ圓周 C ヲ考ヘン、(コノ圓周ノ

代リニ、 O ヲ過ギル一ツノ圓錐曲線ヲ考フルモ可ナリ)。コノ圓周 C ト一雙ノ直線 l_1, l_2 トノ交點 P_1, P_2 ヲ結ブ直線ヲ $[P_1 P_2]$ ニテ表ハシ、又コノ直線 $[P_1 P_2]$ ノ圓 C ニ關スル極ヲ $P[P_1 P_2]$ ニテ表ハサン。



此平面上ニ於テ直線 L 、點 O 及ビ圓 C ガ固定セルモノト見做ス。然ルトキニ二次方程式 $f = 0$ ヲ與フレバ、一ツノ直線 $[P_1 P_2]$ 、從テ一ツノ點 $P[P_1 P_2]$ ガ定

マル(第一圖)。逆ニ、點 $P[P_1 P_2]$ ガ與ヘラレタルトキ、コノ點ノ圓 C ニ關スル極線 $[P_1 P_2]$ ヲ作り、コノ極線ト圓周 C トノ交點ヲ O ニ結ベバ一雙ノ直線 l_1, l_2 ヲ得ベク、從テ二次方程式ガ定マル。

斯クノ如ク二次方程式 $f = 0$ ト點 $P[P_1 P_2]$ トハ一々對應ヲナスヲ以テ、點 $P[P_1 P_2]$ ヲ以テ二次方程式 $f = 0$ ヲ代表セシムルコトヲ得。以下便利ノ爲メ、之ヲ點ニヨル表示ト呼バン。

又直線 $[f]$ を以テ二次方程式 $[f]=0$ を代表セシムルモノナリ。之ヲ直線ニヨル表示ト呼フベシ。コノ思想ハくらゐんノ第一論文ニ負ヘル所ナリ。

サテ $[f]=0$ ガ二ツノ異ル實根ヲ有スルカ、等根ヲ有スルカ又ハ虚根ヲ有スルカニ從テ、直線 $[f]$ ハ實ニシテ異ルカ、一致スルカ又ハ虚トナル。從テ直線 $[f]$ ハ二ツノ實點ニ於テ定圓 C ト交ルカ、定圓 C ニ切スルカ、又ハ二ツノ虚點ニ於テ定圓 C ト交ル。從テ又點 $P[f]$ ハ定圓 C ノ外ニアルカ、周上ニアルカ又ハ内部ニアリ。

3. へっせノ變形法

平面上ニ點 $P[f]$ ヲ與フレバ、第2款ニヨリテ二次方程式ガ定マル、從テ第1款ニヨリテ直線 L ノ上ニ二點 z_1, z_2 ガ定マル。逆ニ、直線 L ノ上ニ二點 z_1, z_2 ヲ與フレバ、平面上ニ一點 $P[f]$ ガ定マル。即チ平面上ノ一點ト一定直線上ノ一雙ノ點トガ對應ス、而カモ直線 L ノ上ニ於テ相重ナル二點ノ平面上ニ於ケル對應點ハ定圓 C ノ周上ニアリ。

斯クノ如ク平面上ノ一點ト直線上ノ一雙ノ點トガ對應シ得ベキコトヲ初メテ認メタルハへっせ (第二論文) ナリ。へっせ自身ノ方法ハ上述ノ方法ヨリモ複雑ナレドモ、興味ナキニアザルヲ以テ次ニ其ノ概要ヲ示サン。

一ツノ直線 L ヲ取り、ソノ上ノ任意ノ定點ヨリ其ノ直線上ニ於テ z ノ距離ヲ測リテ得タル點ヲ z 自身ニテ表ハス。次ニ一ツノ平面 E ノ上ニ直角座標軸ヲ取り、コノ平面上ノ一點 P ノ座標ヲ (x, y) ニテ表ハス。而シテ z ノ x, y トノ間ニ

$$Ax^2 + 2Bx + C = 0$$

ナル關係式ガ存在スルモノト假定ス、但シ $A, B, C \neq 0$ ニ關スル一次式ヲ表ハス。

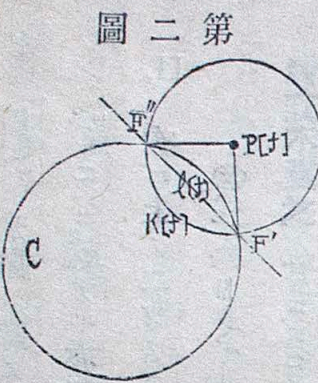
然ラバ點 P 、從テ z ノ値ガ與ヘラル、トキハ、上ノ關係式ヨリ z ノ二ツノ値ヲ得、即チ平面 E 上ノ一點ハ直線 L 上ノ二點ニ對應ス。逆ニ、直線 L ノ上ニ二點 z_1, z_2 ガ與ヘラル、トキハ

$$Az_1^2 + 2Bz_1 + C = 0, \quad Az_2^2 + 2Bz_2 + C = 0.$$

コノ二ツノ關係式ヲ z 關スル一次ノ聯立方程式ト

4. 圓ニヨル表示

コレヨリ第2款ノ方法ヲ變化シテ次ノ如ク考ヘン。



點 $P[f]$ ヲ中心トシ定圓 C ニ直交スル圓ヲ $[f]$ ニテ表ハス。然ルトキハ二次方程式 $f=0$ ヲ與フレバ圓 $[f]$ ガ定マリ、逆ニ圓 $[f]$ ヲ與フレバ二次方程式 $f=0$ ガ定マル。故ニ圓 $[f]$ ヲ以テ二次方程式ヲ代表セシムルコトヲ得。之ヲ圓ニヨル表示ト呼バン。

見做セバ、 z_1, z_2 ニ就テ一組ノ値ヲ得、即チ直線 L 上ノ二點ハ平面 E 上ノ一點ニ對應ス。而シテ直線 L 上ノ二點ガ相重ナルトキハ、ソレニ對應スル平面上ノ點ノ座標ハ $B^2 - AC = 0$ ヲ満足ス、即チ一ツノ圓錐曲線上ニアリ。

之ニ由テ觀レバ吾人ノ方法ハへっせノ方法ノ特段ノ場外ナラザルヲ知ル。

合コレヨリ再ビ吾人ノ方法ニ歸ラン。

サテ定圓 C ノ直交圓 $[f]$ ハ二點 F_1, F_2 ヲ過ル。由テ二次方程式 $f=0$ ガ二ツノ異ル實根ヲ有スルカ、等根ヲ有スルカ又ハ虚根ヲ有スルカニ從テ、圓 $[f]$ ハ實在スルカ、點ニ歸スルカ又ハ實在セズ。

第二節 二ツノ二次方程式

5. 二ツノ二次方程式ノ判別式、聯立不變式、終結式

$$a_1z^2 + 2b_1z + c_1 = 0, \quad a_2z^2 + 2b_2z + c_2 = 0$$

アルトキ、 $z = \frac{x}{y}$ トオキテ二ツノ二元二次式

$$f_1 \equiv a_1x^2 + 2b_1xy + c_1y^2, \quad f_2 \equiv a_2x^2 + 2b_2xy + c_2y^2$$

ヲ作ル

I. コノ二ツノ二次式ノ判別式 discriminant ヲ夫々

$$\Delta(f_1)f_1 \Delta(f_2) - 2s_1s_2$$

$$\Delta(f_1) \equiv a_1c_1 - b_1^2, \quad \Delta(f_2) \equiv a_2c_2 - b_2^2$$

サテ判別式 $\Delta(f)$ ガ零トナルコトハ、二次方程式 $f=0$ ガ等根ヲ有スルコトヲ意味ス。從テ直線ニヨル表示ニ從バハ、直線 $[f]$ ガ定圓 C ニ切スルコトヲ意味ス。

又點ニヨル表示ニ從へば、コハ點 $P[f_1]$ が定圓 C ノ周上ニアルコトヲ意味ス。更ニ圓ニヨル表示ニ從へば、コハ圓 $K[f_1]$ が點ニ歸スルコトヲ意味ス。

$\Delta(f_2) = 0$ ニ就テモ亦同様ニシテ解釋スルコトヲ得。

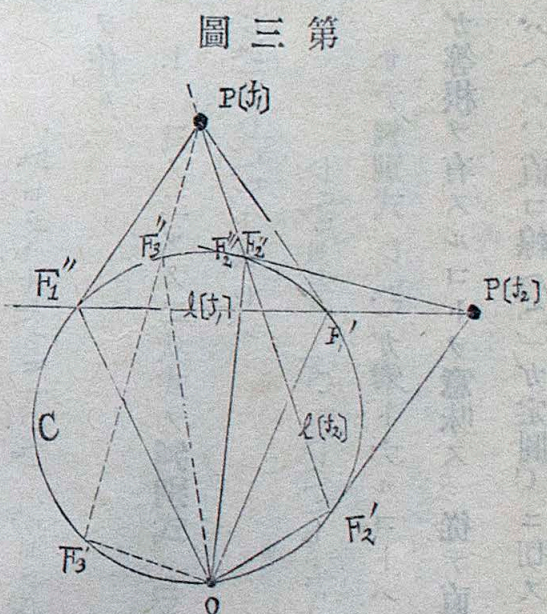
II. 次ニ上ノ二ツノ二次式ノ係數ニテ作レル式

$$H(f_1, f_2) \equiv a_1 c_2 - 2b_1 b_2 + c_1 a_2$$

ヲ聯立不變式 simultaneous invariant (又ハ調和不變式 harmonic invariant) トイフ。コノ聯立不變式 $H(f_1, f_2)$ が零

トナルコトハ、第1款ニ於ケル直線 L ノ上ノ二雙ノ點 $z_1', z_1''; z_2', z_2''$ が調和共軛ヲナス爲メノ條件ナルコト、ヨク知ラレタル所ナリ (301 もん、第332款)。或ハ點 O ヲ過ルニ雙ノ直線 $f_1, f_2; f_1', f_2'$ が調和束線ヲナス爲メノ條件トスルモ可ナリ。

(i) 今直線 $F_2 P[f_1]$ が再ビ定圓 C ト交ル點ヲ F_2'' トシ、 $P[f_1]$ ヲ造ル任意ノ直線が定圓 C ト交ル點ヲ F_2', F_2'' トス。然ルトキハヨク知ラレタル定理 (るしえーこんぶる一す第2卷第467頁) ニヨリテ、束線 $OF_2', OF_2''; OF_2', OF_2''$ が定ムル對合 involution ノ複線 $\angle OF_2', OF_2''$ ナ



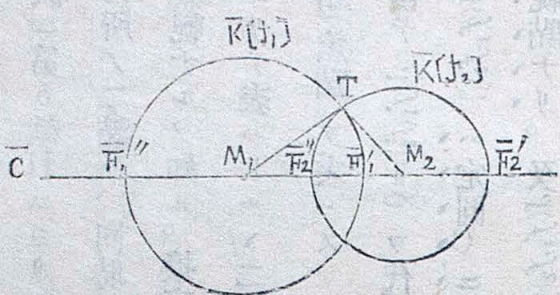
ルヲ知ル。由テ $OF_2', OF_2''; OF_2', OF_2''$ ハ調和束線ヲナス。然ルニ假定ニヨレバ OF_2', OF_2'' ハ調和束線ナル故、

$F_2' F_2''$ ト $F_2' F_2''$ トハ一致セザルヲ得ズ。即チ $P[f_1]$ ノ極線 $F_2' F_2''$ 或ハ $K[f_2]$ ノ極線 $P[f_1]$ ヲ過ル、同様ニ $P[f_1]$ ノ極線 $P[f_1]$ 又 $P[f_2]$ ヲ過ル。

由テ點ニヨル表示ニヨレバ、 $H(f_1, f_2) = 0$ ナルトキハ $P[f_1], P[f_2]$ ハ定圓 C ニ關シテ互ニ共軛ナリ、而シテ此逆モ亦眞ナリ。又直線ニヨル表示ニヨレバ、 $H(f_1, f_2) = 0$ ハ $K[f_1], K[f_2]$ が定圓 C ニ關シテ互ニ共軛ナル爲メニ必要ニシテ且ツ十分ナル條件ナリ。

(ii) 次ニ圓ニヨル表示ニ從ヘル解釋ヲ求ムルニハ、點 O ニ關シテ全圖形ヲ反轉 invert スルヲ便トス。然ルトキ

圖四第



ハ定圓 C ハ一ツノ直線 C トナリ、二圓 $K[f_1], K[f_2]$ ハ二直交スル二ツノ圓 $K[f_1], K[f_2]$ トナル、而シテ此等ノ圓ト C トノ交點 $F_1', F_1''; F_2', F_2''$ ハ調和列點ヲナス。何トナレバ圓周上ニ於ケル四點ノ複比ハ反轉ニヨリテ不變ナレバヨリ。今二圓 $K[f_1], K[f_2]$ ノ中心ヲ M_1, M_2 トシ、其ノ交點ノ一ツヲ T トスレバ、調和列點ノ性質ヨリ。

$$\frac{M_1 T}{M_2 T} = \frac{M_1 F_1'}{M_2 F_1'} = \frac{M_1 F_1''}{M_2 F_1''}$$

ナルヲ以テ、 $M_1 T$ ハ T ニ於テ圓 $K[f_1]$ ニ切ス、同様ニ $M_2 T$ ハ T ニ於テ圓 $K[f_2]$ ニ切ス。由テ二ツノ圓 $K[f_1], K[f_2]$ ハ直交ス、然ルニ角ノ大サハ反轉ニヨリテ不變ナル故、二圓 $K[f_1], K[f_2]$ モ亦直交ス。

故ニ $H(f_1, f_2) = 0$ ハ二圓 $K[f_1], K[f_2]$ が直交スル爲メニ必要ニシテ且ツ十分ナル條件ナリ。

III. 最後ニ二ツノ二次式 f_1, f_2 ノ終結式 Resultant

$$R(f_1, f_2) \equiv 4(a_1 b_2 - b_1 a_2)(b_1 c_2 - c_1 b_2) - (a_1 c_2 - c_1 a_2)^2 \\ = 4\Delta(f_1)\Delta(f_2) - F^2(f_1, f_2)$$

が零ナル場合ヲ考ヘ。

コノ場合ニハ直線 L ノ上ニ於ケル二雙ノ點 z_1', z_1'' ノ一ツト他ノ一雙ノ點 z_2', z_2'' ノ一ツトガ一致ス。從テ直線ニヨル表示ニ於テハ、二直線 $K[f_1], K[f_2]$ ハ定圓 C ノ周上ニ於テ交ル。又點ニヨル表示ニ於テハ、二點 $P[f_1], P[f_2]$ ヲ結ブ直線ハ定圓 C ニ切ス。更ニ圓ニヨル表示ニ於テハ、二圓 $K[f_1], K[f_2]$ ハ定圓 C ノ周上ノ一點ニ於テ相切ス。

6. ヤコビ行列

二ツノ二次式 f_1, f_2 ノヤコビ行列 Jacobian トハ

$$\begin{vmatrix} \frac{1}{2} \frac{\partial f_1}{\partial x} & \frac{1}{2} \frac{\partial f_2}{\partial x} \\ \frac{1}{2} \frac{\partial f_1}{\partial y} & \frac{1}{2} \frac{\partial f_2}{\partial y} \end{vmatrix}$$

即チ

$$(a_1 b_2 - b_1 a_2)x^2 + (a_1 c_2 - c_1 a_2)xy + (b_1 c_2 - c_1 b_2)y^2$$

ヲ謂ヒ、之ヲ $J(f_1, f_2)$ ニテ表ハス。

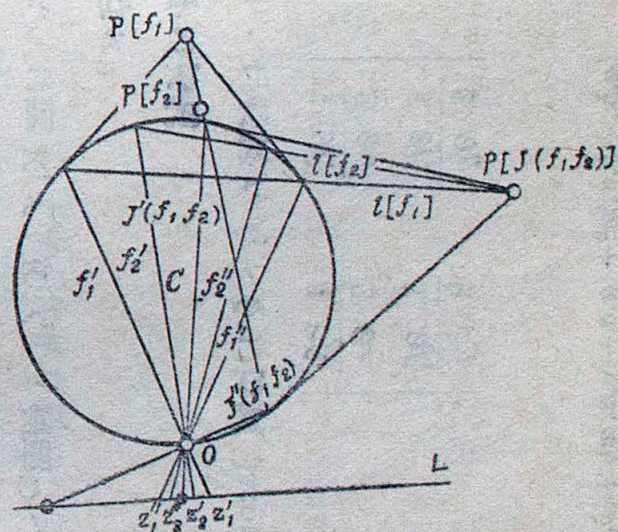
$$J(f_1, f_2) = 0$$

ハマターツノ二次方程式ナル故、其ノ幾何學的意義ヲ解釋セントス。其レガ爲メニ f_1 ト $J(f_1, f_2)$ トノ聯立不變式 $II(f_1, J(f_1, f_2))$ ヲ作レバ、コノ聯立不變式ガ恆等的ニ零トナルコト直ニ驗證セラルベシ。同様ニ吾人ハ恆等式 $III(f_2, J(f_1, f_2)) = 0$ ヲ得。

故ニ第5款IIニヨリテ $J(f_1, f_2) = 0$ ガ直線Lノ上ニ於テ表ス所ノ二點ハ、同時ニ二雙ノ點 z_1', z_1'' 及 z_2', z_2'' ト調和共軛ナルヲ知ル。換言スレバ、 $J(f_1, f_2) = 0$ 及 $f_1 = 0, f_2 = 0$ ニヨリテ表ハサル、二雙ノ點ニヨリテ定メラル、對合ノ複點(焦點)ヲ表ハス。(參ル、第342款。)

由テ $J(f_1, f_2) = 0$ ヲ代表スル點ヲ $P[J(f_1, f_2)]$ トスレバ、 $P[J(f_1, f_2)]$ ハ定圓Cニ關シテ同時ニ二點 $P[f_1], P[f_2]$ ハ共軛點ナリ。又 $J(f_1, f_2) = 0$ ノ表ス直線ヲ $L[J(f_1, f_2)]$ トスレバ、コノ直線ハ同時ニ二直線 $L[f_1], L[f_2]$ ニ共軛ナリ。從テ $P[J(f_1, f_2)]$ ハ $P[f_1]$ ト $P[f_2]$ トヲ結ブ直線ノ極ニ

圖五第



シテ、又二點 $P[f_1]$ ト $P[f_2]$ トヲ結ブ直線ハ $L[J(f_1, f_2)]$ ニ外ナラズ。更ニ $J(f_1, f_2) = 0$ ヲ代表スル圓ヲ $K[J(f_1, f_2)]$ トスレバ、此圓ハ同時ニ圓 $K[f_1]$

7. 重複やこび式

吾人ハ前款ニ於テやこび式 $J(f_1, f_2)$ ヲ表ハス點 $P[J(f_1, f_2)]$ ガ $P[f_1]$ ト $P[f_2]$ トヲ結ブ直線ノ定圓Cニ關スル極ナルコトヲ見タリ。故ニ $P[f_1]$ ノ極線ハ $P[J(f_1, f_2)]$ ヲ過ギリ、 $P[J(f_1, f_2)]$ ノ極線ハ $P[f_1]$ ヲ過ギル。

由テ更ニ f_1 ト $J(f_1, f_2)$ トノやこび式 $J(f_1, J(f_1, f_2))$ ヲ表ス

所ノ點 $P[J(f_1, J(f_1, f_2))]$ ヲ求ムレバ、 $P[J(f_1, J(f_1, f_2))]$ ハ

$P[f_1]$ ト $P[f_1, f_2]$ トヲ結ブ直線ノ極ナリ。故ニ $P[f_1]$ ト

$P[J(f_1, f_2)]$ トノ極線

ハ共ニ $P[J(f_1, f_2)]$ ヲ

過ギル。然ルニ $P[f_1]$

ノ極線ハマタ點

$P[J(f_1, f_2)]$ ヲ過ギル

故、 $P[f_1]$ ノ極線ハ

二點 $P[J(f_1, f_2)]$ ト

$P[J(f_1, J(f_1, f_2))]$ トヲ

結ブ直線ニ外ナラ

ズ。マタ $P[J(f_1, f_2)]$

ノ極線ハ $P[f_1]$ ヲ過ギル故、 $P[J(f_1, f_2)]$ ノ極線ハ $P[f_1]$

ト $P[J(f_1, J(f_1, f_2))]$ トヲ結ブ直線ニ外ナラズ。

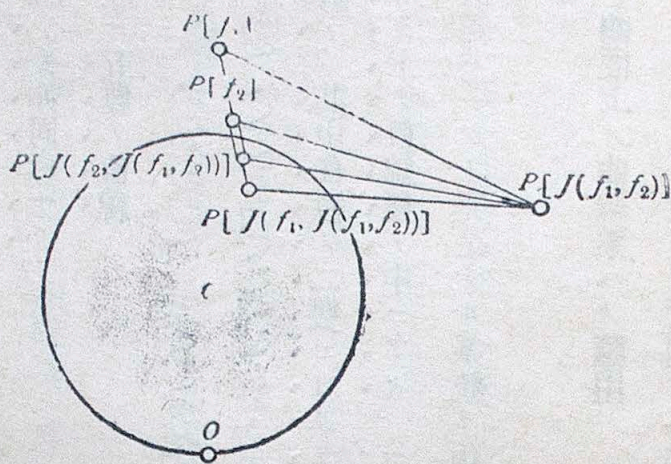
即チ三點 $P[f_1], P[J(f_1, f_2)], P[J(f_1, J(f_1, f_2))]$ ヲ頂點ト

スル三角形ハ定圓Cニ關シテ自共軛ナリ。

同様ニ三點 $P[f_2], P[J(f_1, f_2)], P[J(f_2, J(f_1, f_2))]$ ヲ頂點ト

スル三角形モ定圓Cニ關シテ自共軛ナリ。

圖六第



故ニ若シ更ニ $J(f_1, f_2)$ ト $J(f_1, J(f_1, f_2))$ トノやこび式

$J(J(f_1, f_2), J(f_1, J(f_1, f_2)))$ ヲ作レバ、ソレヲ表ス所ノ點

$P[J(J(f_1, f_2), J(f_1, J(f_1, f_2)))]$ ハ $P[J(f_1, f_2)]$ ト $P[J(f_1, J(f_1, f_2))]$

トヲ結ブ直線ノ極ナルヲ以テ、 $P[f_1]$ ニ一致セザルヲ得

ズ。以下順次斯クノ如ク、 f_1, f_2 ト其ノやこび式トヲ如何

様ニ組ミ合セテ新ナルやこび式ヲ作ルトモ、ソレヲ表ハ

ス所ノ點ハ、上ノ五點即チ

$$P[f_1], P[f_2], P[J(f_1, f_2)],$$

$$P[J(f_1, J(f_1, f_2))], P[J(f_2, J(f_1, f_2))]$$

ノ孰レカニ一致ス。

換言スレバ、 f_1, f_2 ト其ノやこび式トヲ如何様ニ組ミ合

セテ新ナルやこび式ヲ作ルトモ、ソノ結果ハ次ノ五ツハ

二次式

$$f_1, f_2, J(f_1, f_2), J(f_1, J(f_1, f_2)), J(f_2, J(f_1, f_2))$$

ノ孰レカニ一致ス。(尙ホ嚴密ニ言ハバ、ソレ等ノ二次式

ニ或ル常數ヲ乗ジタルモノニ外ナラズ)。

此定理ノ代數的證明ニ就テハ小倉ノ論文ヲ見ヨ。近頃

林教授ハ簡單ナル幾何學的別證明ヲ得タレタリ。

上ノ結果ハ之ヲ次ノ如ク述ブルコトヲ得。
一點ヲ過ギル三雙ノ直線

$f_1, f_1'; J(f_1 f_2), J'(f_1 f_2); J(f_2, J(f_1 f_2)), J'(f_2, J(f_1 f_2))$
ハ任意ノ一雙ハ、他ノ二雙ニヨリテ定メラル、對合ノ複
線ナリ。而シテ他ノ三雙ノ直線

$f_2, f_2'; J(f_1 f_2), J'(f_1 f_2); J(f_2, J(f_1 f_2)), J'(f_2, J(f_1 f_2))$
ニ就テモ亦同様ナリ。

故ニ五雙ノ直線

$$f_1, f_1'; f_2, f_2'; J(f_1 f_2), J'(f_1 f_2);$$

$J(f_1, J(f_1 f_2)), J'(f_1, J(f_1 f_2)); J(f_2, J(f_1 f_2)), J'(f_2, J(f_1 f_2))$
ニ於テ、其中任意ノ二雙ニヨリテ定メラル、對合ノ複線
ハマタ上ノ直線雙ノ中ニアリ。コノ意味ニ於テコノ五雙
ノ直線ハ一ツノ完全ナル系統ヲ作ル。

8. 曲面上ノ曲線系ノ應用

コ、ニ前款ノ最後ノ定理ノ一應用ヲ示サントス。
曲面ノ上ニ一ツノ曲線系アリ、其ノ曲面上ノ任意ノ一
點ヲ過リ此曲線系ニ屬スル二箇ノ曲線が存在スルトキ

ハ、コノ系ハ ∞^2 箇ノ曲線ヨリ成ルト稱ス。

從來微分幾何學ニ於テハ此種ノ曲線系ガ最モ多ク取扱
ハレタリ。例ヘバ極小曲線 minimal lines, 漸近曲線
asymptotic lines, 曲率曲線 lines of curvature, 振率曲線
lines of torsion, 特徵曲線 characteristic lines 等ノ如シ。

サテ曲面上ノ任意ノ一點ヲ〇トシ、ソノ點ニ於ケル切
平面上ニ於テ〇ヲ過ギル曲線ノ方向 (即チ切線) ヲ考ヘ
ン。然ラバ ∞^2 箇ノ曲線ヨリ成レル一ツノ曲線系ニ就テ
ハ、上述ノ方向ハニツアル故、ソノニツノ切線ガ二次方
程式ニヨリテ表サル、コト第1款(ii)ニ於ケルガ如シ。

今若シ二次方程式

$$f_1 = 0, f_2 = 0$$

ヲ以テ夫々極小曲線及ビ漸近曲線ノ方向ヲ表スモノトス
レバ、

$$J(f_1 f_2) = 0$$

ハ曲率曲線ノ方向ヲ表ハシ、

$$J(f_1, J(f_1 f_2)) = 0$$

ハ振率曲線ノ方向ヲ表ハシ、

$$J(f_2, J(f_1 f_2)) = 0$$

ハ特徵曲線ノ方向ヲ表ハスコトヲ證明シ得ベシ。
故ニ前款ノ最後ノ結果ヲ適用スレバ、次ノ定理ニ到達
ス。

五ツハ曲線系

極小曲線、漸近曲線、曲率曲線、
振率曲線、特徵曲線

ニ於テ、ソノ中任意ノ二系ノ方向ニヨリテ定メラル、對
合ノ複線ハ、マタ上ノ或ル一ツノ曲線系ノ方向ヲ示ス。

即チ此意味ニ於テ上ノ五ツノ曲線系ハ一ツノ完全ナル系
統ヲ作ル。

コノ定理ハ曲面上ノ曲線系ヲ系統的ニ研究スル上ニ於
テ注意スベキ性質ノモノナリ。猶ホ上ノ事項ノ詳細ナル
證明及ビ之ヨリ得ラルベキ推論ニ就テハ、小倉ノ論文ヲ
參照セラルベシ。

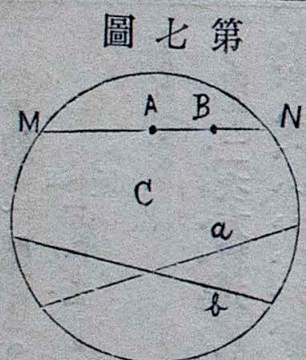
9. 直線ニヨル表示トるばちえふすきー平面幾何學

二次方程式ノ幾何學的理論ヲ簡潔ナル形ニ述ベント欲

セバ、 ∞^2 箇ノ曲線ヨリ成ルト稱ス。
考察ヲ導入スルヲ便トス。

先ヅ直線ニヨル表示ニ於テ、ケーレー Cayley 特ニ
ら ∞^2 ノ風ニ從ヘル非 ∞^2 ノ幾何學ノ思想ヲ誘導
センニ、定圓Cヲ非 ∞^2 ノ平面ニ於ケル絕對圓錐
曲線ト見做スベシ。而シテ其ノ圓ノ内部ノ圖形ノミヲ取
リテ考ヘ、外部ノ圖形ヲバ全然取ラザルモノトス。(る
しえーてんぶるーす、第二卷、第803頁及ビ本誌第228
號ニ於ケル中川教授ノ論文參照)。

然ルトキハ二次方程式 $J=0$ ヲ代表スベキ直線 $J=0$ ハ、
其ノ方程式ノ根ガ實ナル場合ニ限リ實在スルコト明カナ
リ(第2款)。



第七圖

サテ此非 ∞^2 ノ平面ニ於
テハ、二點間ノ距離及ビ角ノ大サ
ヲ測ルニ射影的測定法ヲ用フベ
シ。換言スレバ、二點A, Bヲ過ギ
ル直線ガ定圓Cト交ル點ヲM, Nト
スレバ、四點ノ複比(ABMN)ノ對數ニ或ル常數ヲ乘ジ

タルモノ即チ

$$\frac{k}{2} \log(ABMN)$$

ヲ二點A,B間ノ距離ト稱ス。又一點ヲ過ギルニツノ直線abノ交點ヨリ定圓Cニ引ケルニツノ虚切線ヲミントスレバ、四直線ノ複比(abmn)ノ對數ニ $\frac{1}{2\sqrt{-1}}$ ヲ乗ジタモノ即チ

$$\frac{1}{2i} \log(abmn)$$

ヲ二直線abノナス角ノ大サト稱ス。

斯クノ如キ測定法ニ從ヘバ、定圓Cノ内部ノ點ハ有限距離ニアル點ニシテ、定圓Cノ周上ニ於テ交ルニツノ直線ハ互ニ平行トナル。

又二ツノ直線ガ定圓Cニ關シテ共軛ナルトキハ、コノニツノ直線ハ直角ニ交ル。何トナレバ、 α, β もん第661頁ニ於テ二直線ノ夾ム角ノ大サハ

$$\frac{1}{2i} \log \frac{II + \sqrt{(II^2 - 222)}}{II - \sqrt{(II^2 - 222)}}$$

ナルヲ知リ、又二直線ガ共軛ナル爲メノ條件(α, β もん第465頁)ハ

$$II=0$$

ナルヲ知ル。然ルニ $e^{2\pi i} = -1$ ナル故 $\log(-1) = \pi i$ 。從テ $\frac{1}{2i} \log(-1) = \frac{\pi}{2}$

ナレバナリ。

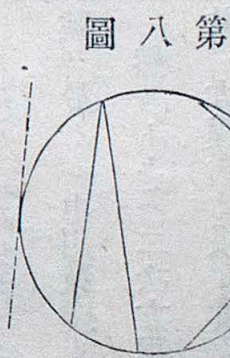
由テ二次方程式ノ判別式ガ零トナルコトハ、直線ガ無窮遠ニアルコトヲ意味ス、(第5款I)。

二ツノ二次方程式ノ終結式ガ零トナルコトハ、ニツノ直線ガ平行スルコトヲ意味ス、(第5款II)。

二ツノ二次方程式ノ聯立不變式ガ零トナルコトハ、ニツノ直線ガ直交スルコトヲ意味ス、(第6款)。

斯クノ如クろばちえふすき一平面幾何學ノ思想ヲ利用スレバ、二次方程式ノ性質(二元二次式ノ不變式論的性質)

(第5款II)。



圖八第

質)ガ極メテ簡明ニ表サル、ヲ見ルベシ。

10. 圓ニヨル表示トろばちえふすき一平面幾何學

次ニ圓ニヨル表示ニ非ゆ一くりつと幾何學ヲ適用セント欲セバ、ぽあんかれ Poincaré, くらん、うえるすたさん Wellstein 等ノ思想ヲ導入スレバ可ナリ、(るしえーこんぶるーす、第二卷第794頁)。

即チ定圓Cヲろばちえふすき一平面ノ絶對圓ト見做シ、コレニ直交スル圓周ノ定圓Cノ内部ニアル部分ノ弧ヲ直線ト考フベシ。

コノ場合ニハ角ノ大サヲ測ルニハ普通ノ意味ノモノヲ

以テスベキモ、二點間ノ距離ヲ測ルニハ次ノ方法

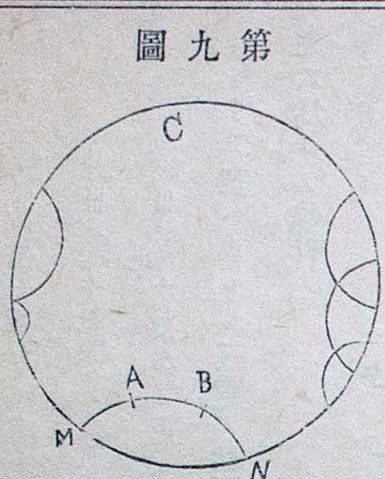
ニヨラザルベカラズ。即

チ二點A,Bヲ過ギリテ

定圓Cニ直交スル圓周C

ヲ畫キ、ソノ圓Cト定圓

Cトノ交點ヲM,Nトス



圖九第

レバ、圓周C上ノ四點A,B,M,Nノ複比ノ對數ニ或ル常數ヲ乘ジタルモノヲ以テ、二點A,B間ノ距離ト呼バン。然ルトキハ二次方程式ガ二ツノ異レル實根ヲ有スルカ、等根ヲ有スルカニ從テ、ソノ代表タル直線(普通ノ意味ニ於ケル圓弧)ハ有限ノ距離ニアルカ、無窮遠ニアリ、而シテ其他ノ場合ニハ直線ハ虚トナル、(第4款參照)。

從テ二次方程式ノ判別式ガ零トナルコトハ、直線ガ無窮遠ニアルコトヲ意味ス。

二ツノ二次方程式ノ終結式ガ零トナルコトハ、ニツノ直線ガ平行ナルコトヲ意味ス。

二ツノ二次方程式ノ聯立不變式ガ零トナルコトハ、ニツノ直線ガ直交スルコトヲ意味ス。

二ツノ二次方程式ノやちび式ヲ零ト置キタル二次方程式ハ、二ツノ直線ノ共通垂線ナリ。

11. 對合 第三節 三ツノ二次方程式

直線 L ノ上ニ三ツノ二次方程式

$$f_1 \equiv a_1x^2 + 2b_1xy + c_1y^2 = 0,$$

$$f_2 \equiv a_2x^2 + 2b_2xy + c_2y^2 = 0,$$

$$f_3 \equiv a_3x^2 + 2b_3xy + c_3y^2 = 0$$

ニヨリテ表ハサル、二雙ノ點 $z_1, z_1'; z_2, z_2'; z_3, z_3'$ ガ對合ヲナス爲メノ條件ハ

a_1	b_1	c_1
a_2	b_2	c_2
a_3	b_3	c_3

$$= 0$$

ナリ、(341)も、第342款脚註)。

從ツテコノ場合ニハ與ヘラレタル三ツノ二次式

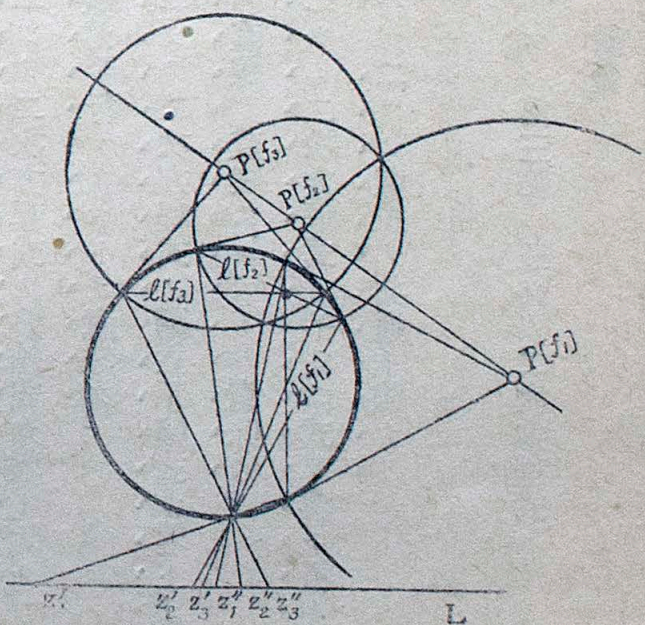
f_1, f_2, f_3 ハ相互ニ獨立ニアラズシテ、其ノ間ニハ線狀關係 linear dependence が存在ス、即チ

$$\mu_1 f_1 + \mu_2 f_2 + \mu_3 f_3 = 0$$

ナル關係式ガ成立セザルベカラズ、コノニ λ, μ, ν ハ a, b, c ニ無關係ナル常數ヲ表ハス。而シテ此逆モ亦眞ナリ。

然ルニ此場合ニハ〇ヲ過ギル二雙ノ直線 $f_1 f_1'; f_2 f_2'; f_3 f_3'$ モ亦對合ヲナスベク、從テ良ク知ラレタル一定理

第十圖



ニヨリテ三ツノ直線 $L[f_1], L[f_2], L[f_3]$ ハ同一ノ點ニ於テ交ル(る)しえ、こゝんぶる一す

第二卷、第

467頁)。從テ此等ノ三直線ノ各々ノ極ナル三ツノ點 $P(f_1), P(f_2), P(f_3)$ ハ同一ノ直線上ニアリ。而シテ此證明法ハ之ヲ逆ニ遂行シ得ルヲ以テ、ソノ逆モマタ眞ナリ。

故ニ三ツノ二次式 f_1, f_2, f_3 ヲ表ハス三ツノ點 $P(f_1), P(f_2), P(f_3)$ ガ同一直線上ニアル爲メニ必要ニシテ且十分ナル條件ハ、ソノ三ツノ二次式ガ線狀關係ヲ有スルコトナリ。

次ニ上ノ場合ニ於テハ三ツノ圓 $K(f_1), K(f_2), K(f_3)$

ハ同一ノ直線上ニ中心 $P(f_1), P(f_2), P(f_3)$ ヲ有シ、且ツ同一ノ圓 C ニ直交スルヲ以テ、一ツノ圓束(共軸圓)ヲ作ル。コレヨリ次ノ結果ヲ得。

三ツノ二次式 f_1, f_2, f_3 ヲ表ハス三ツノ圓 $K(f_1), K(f_2), K(f_3)$ ガ共軸ナル爲メニ必要ニシテ且十分ナル條件ハ、ソノ三ツノ二次式ガ線狀關係ヲ有スルコトナリ。

12 對合ニ關スルヘッセノ定理

直線 L ノ上ニ六ツノ點 $z_1, z_2, z_3, z_4, z_5, z_6$ ヲ取ル。 z_1, z_2 ヲ根トスル二次方程式ヲ

$$a_1z^2 + 2b_1z + c_1 = 0$$

トシ、 z_3, z_6 ヲ根トスル二次方程式ヲ

$$a_2z^2 + 2b_2z + c_2 = 0$$

トスレバ、 $z_1, z_2, z_3, z_4, z_5, z_6$ ニヨリテ定メラルル對合ノ複點ハ

$$(a_1b_2 - b_1a_2)z^2 + (a_1c_2 - c_1a_2)z + (b_1c_2 - c_1b_2) = 0$$

ニヨリテ與ヘラル。然ルニ

$$z_1 + z_2 = -\frac{2b_1}{a_1}, \quad z_3 + z_6 = -\frac{2b_2}{a_2};$$

$$z_1 + z_5 = -\frac{2b_1}{a_1}, \quad z_4 + z_6 = -\frac{2b_2}{a_2}$$

ナルヲ以テ、上ノ方程式ハ

$$\{z_1 + z_2\} - \{z_4 + z_6\} z^2 - 2\{z_1 z_2 - z_4 z_6\} z + z_1 z_2 (z_4 + z_6) - z_4 z_6 (z_1 + z_2) = 0$$

トナル、コノ左邊ヲJ(36)ニテ表ハサン。

然ルトキハ同様ニシテ $z_2, z_3; z_5, z_6$ ニヨリテ定メラルル對合ノ複點ハ

$$J(14) \equiv \{z_2 + z_3\} - \{z_5 + z_6\} z^2 - 2\{z_2 z_3 - z_5 z_6\} z + z_2 z_3 (z_5 + z_6) - z_5 z_6 (z_2 + z_3) = 0$$

ニヨリテ與ヘラレ、又 $z_3, z_4; z_5, z_1$ ニヨリテ定メラルル對合ノ複點ハ

$$J(25) \equiv \{z_3 + z_4\} - \{z_5 + z_1\} z^2 - 2\{z_3 z_4 - z_5 z_1\} z + z_3 z_4 (z_5 + z_1) - z_5 z_1 (z_3 + z_4) = 0$$

ニヨリテ與ヘラル。

コレヨリ吾人ハ

$$2J(36) + \mu J(14) + \nu J(25) = 0$$

ヲ満足スル常數 λ, μ, ν ノ存在スルコトヲ證明セントス。ソレガ爲メニ

$$\lambda\{z_1 + z_2\} - \{z_4 + z_6\} + \mu\{z_2 + z_3\} - \{z_5 + z_6\}$$

$$\begin{aligned} & + \nu \{ (z_3 + z_4) - (z_6 + z_1) \} = 0, \\ & \lambda \{ z_1 z_2 - z_4 z_5 \} + \mu \{ z_2 z_3 - z_5 z_6 \} + \nu \{ z_3 z_4 - z_6 z_1 \} = 0, \\ & \lambda \{ z_1 z_2 (z_4 + z_5) - z_4 z_5 (z_1 + z_2) \} + \mu \{ z_2 z_3 (z_5 + z_6) - z_5 z_6 (z_2 + z_3) \} \\ & + \nu \{ z_3 z_4 (z_6 + z_1) - z_6 z_1 (z_3 + z_4) \} = 0 \end{aligned}$$

ナル様ナル常數 λ, μ, ν ノ存在スルコトヲ證明スレバ可ナリ。

$$\begin{aligned} \phi(36) & \equiv \{ (z_1 + z_2) - (z_4 + z_5) \} \alpha \beta - (z_1 z_2 - z_4 z_5) (\alpha + \beta) \\ & + z_1 z_2 (z_4 + z_5) - z_4 z_5 (z_1 + z_2), \\ \phi(14) & \equiv \{ (z_2 + z_3) - (z_5 + z_6) \} \alpha \beta - (z_2 z_3 - z_5 z_6) (\alpha + \beta) \\ & + z_2 z_3 (z_5 + z_6) - z_5 z_6 (z_2 + z_3), \\ \phi(25) & \equiv \{ (z_3 + z_4) - (z_6 + z_1) \} \alpha \beta - (z_3 z_4 - z_6 z_1) (\alpha + \beta) \\ & + z_3 z_4 (z_6 + z_1) - z_6 z_1 (z_3 + z_4), \\ (a - \beta) \phi(36) & = (a - z_1) (a - z_2) (\beta - z_4) (\beta - z_5) \\ & - (a - z_4) (a - z_5) (\beta - z_1) (\beta - z_2), \\ (a - \beta) \phi(14) & = (a - z_3) (a - z_5) (\beta - z_5) (\beta - z_6) \\ & - (a - z_5) (a - z_6) (\beta - z_3) (\beta - z_4), \end{aligned}$$

トオケバ、簡單ナル計算ニヨリテ

$$\begin{aligned} (a - \beta) \phi(36) & = (a - z_1) (a - z_2) (\beta - z_4) (\beta - z_5) \\ & - (a - z_4) (a - z_5) (\beta - z_1) (\beta - z_2), \\ (a - \beta) \phi(14) & = (a - z_3) (a - z_5) (\beta - z_5) (\beta - z_6) \\ & - (a - z_5) (a - z_6) (\beta - z_3) (\beta - z_4), \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (a - \beta) \phi(25) & = (a - z_2) (a - z_4) (\beta - z_6) (\beta - z_1) \\ & - (a - z_6) (a - z_1) (\beta - z_2) (\beta - z_3) \end{aligned}$$

ナルヲ知ル。

然ルニ恆等式

$$\begin{aligned} & (a - z_3) (\beta - z_6) [(a - z_1) (a - z_2) (\beta - z_4) (\beta - z_5) \\ & - (a - z_4) (a - z_5) (\beta - z_1) (\beta - z_2)] \\ & - (a - z_1) (\beta - z_4) [(a - z_2) (a - z_3) (\beta - z_5) (\beta - z_6) \\ & - (a - z_5) (a - z_6) (\beta - z_2) (\beta - z_3)] \\ & + (a - z_3) (\beta - z_2) [(a - z_2) (a - z_4) (\beta - z_6) (\beta - z_1) \\ & - (a - z_6) (a - z_1) (\beta - z_2) (\beta - z_3)] = 0 \end{aligned}$$

ノ成立スルコトハ一見シテ明カナリ、即チ

$$\begin{aligned} & (a - z_2) (\beta - z_6) (a - \beta) \phi(36) - (a - z_1) (\beta - z_4) (a - \beta) \phi(14) \\ & + (a - z_6) (\beta - z_2) (a - \beta) \phi(25) = 0, \\ & (a - z_3) (\beta - z_6) \phi(36) - (a - z_1) (\beta - z_4) \phi(14) \\ & + (a - z_6) (\beta - z_2) \phi(25) = 0 \end{aligned}$$

ヲ得。

故ニ今同時ニ

$$\phi(36) = 0, \phi(14) = 0$$

ヲ満足スル α, β ノ値ノ一組ヲ α_0, β_0 トスレバ、一般ニ $\alpha_0 \neq \beta_0, \beta_0 \neq \alpha_0$ ナル故、 $\alpha = \alpha_0, \beta = \beta_0$ 。

$$\phi(25) = 0$$

ヲ満足ス。即チ α, β ヲ未知數ト見做セバ、之ニ就テ二元一次ナル二ツノ方程式

$$\phi(36) = 0, \phi(14) = 0, \phi(25) = 0$$

ガ聯立ス、從テ其ノ係數ノ間ニ線狀關係式

$$\begin{aligned} & \lambda \{ (z_1 + z_2) - (z_4 + z_5) \} + \mu \{ (z_2 + z_3) - (z_5 + z_6) \} \\ & + \nu \{ (z_3 + z_4) - (z_6 + z_1) \} = 0, \\ & \lambda \{ z_1 z_2 - z_4 z_5 \} + \mu \{ z_2 z_3 - z_5 z_6 \} + \nu \{ z_3 z_4 - z_6 z_1 \} = 0, \\ & \lambda \{ z_1 z_2 (z_4 + z_5) - z_4 z_5 (z_1 + z_2) \} \\ & + \mu \{ z_2 z_3 (z_5 + z_6) - z_5 z_6 (z_2 + z_3) \} \\ & + \nu \{ z_3 z_4 (z_6 + z_1) - z_6 z_1 (z_3 + z_4) \} = 0 \end{aligned}$$

ガ成立ス、コノ λ, μ, ν 及 α, β ニ無關係ナル常數ナリ。從テ

$$\lambda J(36) + \mu J(14) + \nu J(25) = 0.$$

コノ結果ヲ第II款ニ適用スレバ次ノへつせノ定理

(くっせノ第一論文)ヲ得。

一直線上ニアル六ツノ點ヲ 1, 2, 3, 4, 5, 6 ニテ表ハス、然ルトキハ夫々

$$(1, 2; 4, 5), (2, 3; 5, 6), (3, 4; 6, 1)$$

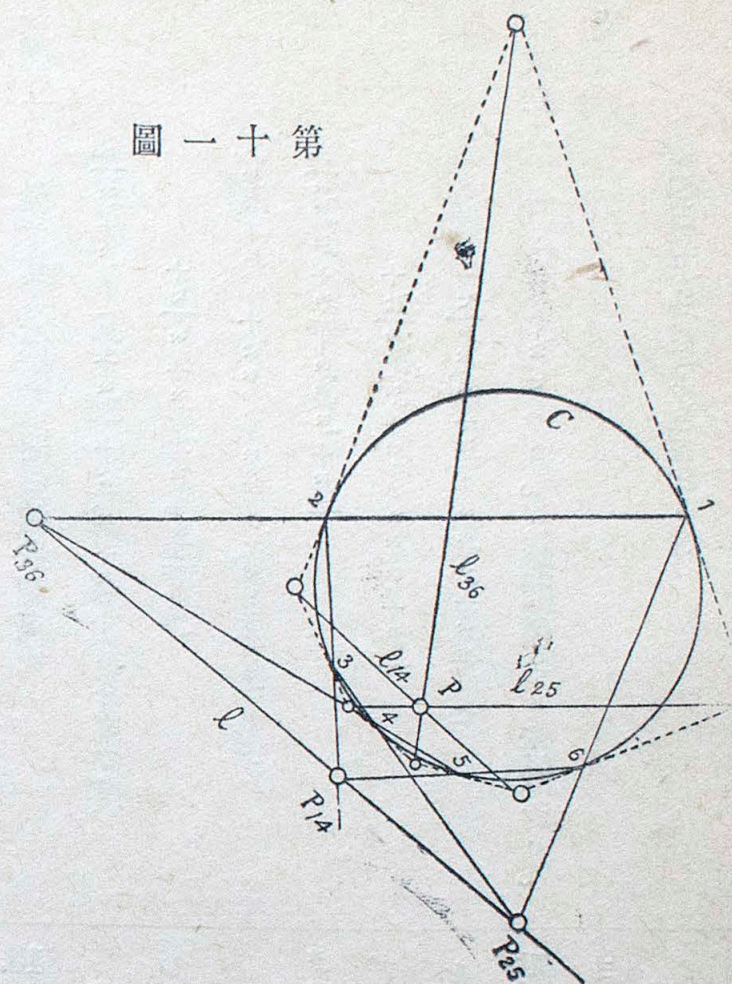
ニヨリテ定メラルル三ツノ對合ノ二雙ノ複點ハ、マタ、三ツノ對合ヲナス。

13. はすかるノ定理

I. サテ直線ニヨル表示ニ於テ、平面上ニ定圓Cヲ取レバ、 z_1, z_2 ヲ根トスル二次方程式ハ、コノ圓周上ノ二點(之ヲ L_{12} ニテ表ハサン)ヲ結ブ直線 L_{12} ヲ表ハス。マタ z_4, z_5 ヲ根トスル二次方程式ハ、此圓周上ノ二點 L_{45} ヲ結ブ直線 L_{45} ヲ表ハス。而シテ $z_1, z_2; z_3, z_4$ ニヨリテ定メラルル對合ノ複點ヲ定ムル二次方程式ハ、二直線 L_{12}, L_{45} ノ交點(之ヲ L_{36} ニテ表ハス)ノ極線(之ヲ L_{36} ニテ表ハス)ニヨリテ表ハサル(第6款)。

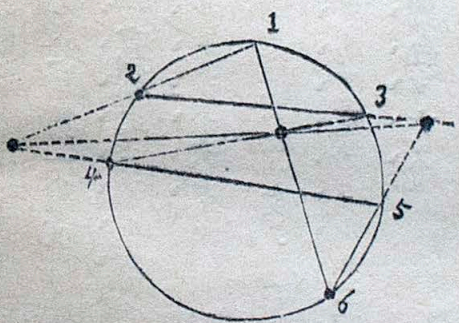
今定圓周Cノ上ニ六ツノ點 1, 2, 3, 4, 5, 6 ヲ取リテ、上ノ如ク直線 L_{12}, L_{45} 及ビ點 L_{36}, P_{14}, P_{25} ヲ作ル。然ルニ前款

第十圖



ニ於ケルヘッセノ定理ニヨレバ、コレ等ノ直線(又ハ點)ニ對應スル三ツノ二次式ハ線狀關係ヲ有ス。由テ第11款ニヨリテ三ツノ點 P_{36}, P_{14}, P_{25} ハ同一ノ直線(之ヲ l_{12} ニテ表ハス)ノ上ニアルコトヲ知ル。コレ即チ圖ニ内接スル六邊形 123456 ニ關スル **はすかる Pascal ノ定理**ニ外ナラズ。即チヘッセノ定理ノ點ニヨル表示ニヨリテば、**はすかる**ノ定理ヲ得タリ。

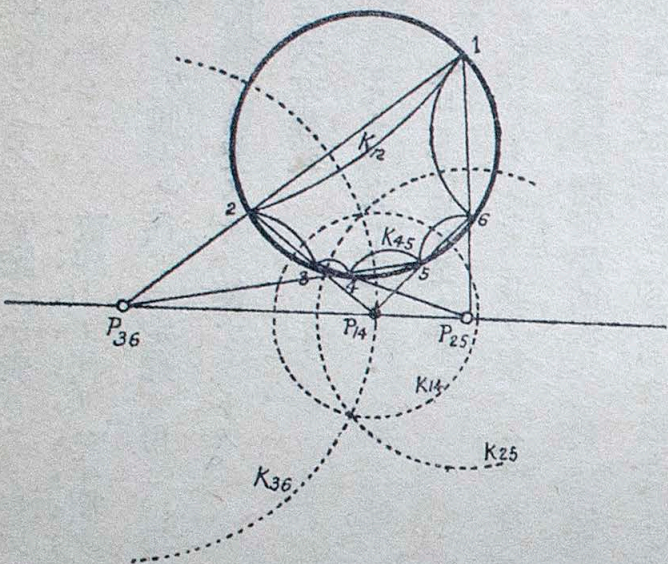
第二十圖



絶對圖ニ内接スル六邊形ノ對邊ノ三ツハ共通垂線ハ、一ツハ垂線ヲ共有ス。
III. 次ニ直線 12, 45 ノ極ヲ P_{12}, P_{45} トスレバ、 $l_{36} \perp P_{12}, P_{45}$ ヲ過ギル(第6款)。同様ニ l_{14} ハ

II. マタ l_{36}, l_{14}, l_{25} ハ夫々 P_{36}, P_{14}, P_{25} ノ極線ナル故、三ツノ直線 l_{36}, l_{14}, l_{25} ハ同一點(之ヲ P ニテ表ハス)ニ於テ交ル、由テ P ハ l_{12} ノ極ナリ。マタ $P_{36} \perp l_{25}$ ノ極ニシテ、 $P \perp l_{36}$ ノ上ニアリ、 P_{25} ハ l_{12} ノ上ニアル故、 l_{36} ト l_{12} トハ共軌ナリ、同様ニ l_{14}, l_{25} モ亦夫々 l_{12} ト共軌ナリ。
故ニ圖ニ内接スル六邊形 123456 ノ對邊ニ同時ニ共軌ナル三ツノ直線 l_{36}, l_{14}, l_{25} ハ同時ニ第四ノ直線 l_{12} ニ共軌ナリ、(くらさん第二論文)。
今コノ圖ヲ絶對圖ト見做シ、非ユークリッド幾何學ニ從テコノ定理ヲ解釋スレバ、次ノ定理ヲ得、(くらさん第二論文)。

第三十圖



P_{23}, P_{56} ヲ過ギル、 $l_{25} \perp P_{34}, P_{61}$ ヲ過ギル。故ニ l_{36}, l_{14}, l_{25} ガ一點 P ニ於テ交ルコトハ、圖 C ニ外接スル六邊形 $P_{12}, P_{23}, P_{34}, P_{45}, P_{56}, P_{61}$ ニ關スル **はすかる** Branchon ノ定理ニ外ナラズ。
IV. 若シ更ニヘッセノ定理ニヨル表示ヲ適用スレバ、次ノ結果ニ到達スルコト明カナリ(第11款)。
一ツノ圓 C ニ直交スル六ツノ圓弧 $K_{12}, K_{23}, K_{34}, K_{45}, K_{56}, K_{61}$ ニヨリテ内接圓弧六邊形ヲ作ル、然ルトキハ相對スル二邊ト圓 C トニ直交スル三ツノ圓 K_{36}, K_{14}, K_{25} ハ共軌圓ナリ。

圖ナリ。

コノ結果ハ六ツノ圓 $K_{12}, K_{23}, K_{34}, K_{45}, K_{56}, K_{61}$ ガ圓 C ニ直交セザル場合ニモ猶ホ成立ス。今コノ一般ノ場合ヲ直接ニ證明セント欲セバ

次ノ如クスレバ可ナリ。
 K_{36} ハ C 及ビ K_{12} ト直交スル故、 K_{36} ノ中心ハ C, K_{12} ノ根軸ノ上ニアリ。同様ニ K_{14} ノ中心ハ C, K_{25} ノ根軸ノ上ニアリ。故ニ K_{36} ノ中心ハ P_{34} ニ外ナラズ。同様ニ K_{14} ノ中心ハ夫々 P_{12}, P_{25} ナリ。然ルニ **はすかる**ノ定理ニヨリテ此等ノ三ツノ圓ノ中心ハ同一直線上ニアリ、而シテ此等ノ圓ハ同ジ圓 C ト直交ス。由テ三ツノ圓 K_{36}, K_{14}, K_{25} ハ共軌圓ナリ。
IIノ結果ハ拙論 On Euclidean image of non-Euclidean geometry (東京數學物理學會紀事、第二輯第六卷、1911年)ニ於テ得タル所ナリ。

第二章 定球ヲ用フル方法

第一節 一ツノ二次方程式

14. 直線又ハ圓ニヨル表示、判別式

第1款ノ方法ニヨレバ二次方程式ガ係數ヲ有スル場合ニハ、之ヲ表ハスコトヲ得ザルノ不便ヲ有ス。又直線 L ノ上ニ於テハ、實係數ノ二次方程式ト雖モ、虚根ヲ有

スル場合ニハ之ヲ實點ニテ表ハスヲ得ズ。コレ等ノ不便ヲ除ク爲メニハ、直線 L ノ代リニ平面ヲ用フルヲ可トス。從テ定圓 C ノ代リニ定球ヲ用ヒ、平面圖形ノ代リニ空間圖形ヲ論究スルヲ便ナリトス。

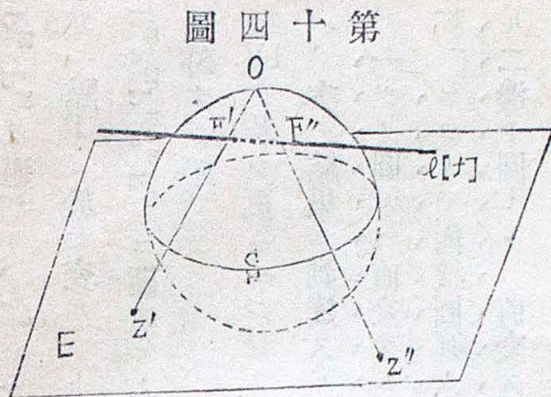
サテ二次方程式

$$ax^2+2bx+c=0$$

又ハ $f \equiv ax^2+2bxy+cy^2=0$

ガ與ヘラレタルトキ、其ノ根ヲ x_1, x_2 、又ハ y_1, y_2 トス。

而シテ複素數ノ幾何學的表示ニ於テ通例用フル如ク、ガウスノ平面 Gaussian plane E ヲ取り、ソノ上ニ根 x_1, x_2 ヲ



ニツノ點トシテ表ハシ、コノ點ヲ x_1, x_2 、自身ニテ表ハサン。次ニ一ツノ定マレル球面 S ヲ取り、ソノ上ノ一定點 O ヲ中心トシテ、平面 E ノ上ノ點 x_1, x_2 ヲ球面 S ノ上ニ射影スレバ、ニツノ點 E_1, E_2 ヲ得。吾人ハ最モ簡單ノ爲メニ、平面

E ヲ球面 S ニ描射影 stereographical projection ヲナスモノトセン、(るしえーこんぶるーす、第2卷第329頁)。

(i) コノ二點 E_1, E_2 ヲ結ブ直線ヲ $[E_1E_2]$ ニテ表ハス。然ルトキハ與ヘラレタル二次方程式ノ如何ニ係ハラズ、直線 $[E_1E_2]$ ハ常ニ一ツ實在ス。逆ニ、球面 S ト交ル一ツノ直線ヲ與フレバ、二次方程式ハ一定ス。故ニ直線 $[E_1E_2]$ ヲ以テ二次方程式 $f=0$ ヲ代表セシムルコトヲ得。コレヲ二次方程式ノ直線ニヨル表示ト呼バン、コレくらいノ第二論文ニ負ヘル所ナリ。

(ii) 或ハ次ノ如クスルモ可ナリ。即チ E_1, E_2 ニ於テ此定球 S ト直交スル圓 $[E_1E_2]$ ハ常ニ一ツ實在ス。コノ圓 $[E_1E_2]$ ヲ以テ二次方程式ヲ代表セシムルコトヲ得ベシ。コレヲ圓ニヨル表示ト呼バン。

然ルトキハ二次式 f ノ判別式

$$\Delta(f) \equiv ac - b^2$$

ガ零トナレバ、直線 $[E_1E_2]$ ハ定球 S ニ切シ、圓 $[E_1E_2]$ ハ定球面 S ノ上ノ一點ニ歸スベシ。

第二節 ニツノ二次方程式

15. 聯立不變式 直線ニヨル表示

コレヨリニツノ二次式

$$f_1 \equiv a_1x^2+2b_1xy+c_1y^2, \quad f_2 \equiv a_2x^2+2b_2xy+c_2y^2$$

ノ聯立不變式

$$\mathbb{H}(f_1, f_2) \equiv a_1c_2 - 2b_1b_2 + c_1a_2$$

ガ零トナル場合ヲ吟味セン。

先ヅ與ヘラレタルニツノ二次方程式 $f_1=0, f_2=0$ ノ根

ヲ夫々 $z_1', z_1''; z_2', z_2''$ トスレバ

$$z_1' + z_1'' = -\frac{2b_1}{a_1}, \quad z_1' z_1'' = \frac{c_1}{a_1}$$

$$z_2' + z_2'' = -\frac{2b_2}{a_2}, \quad z_2' z_2'' = \frac{c_2}{a_2}$$

ナルヲ以テ、 $\mathbb{H}(f_1, f_2)=0$ ハ次ノ如ク書クコトヲ得。

$$(z_1' + z_1'')(z_2' + z_2'') = 2(z_1' z_1'' + z_2' z_2'')$$

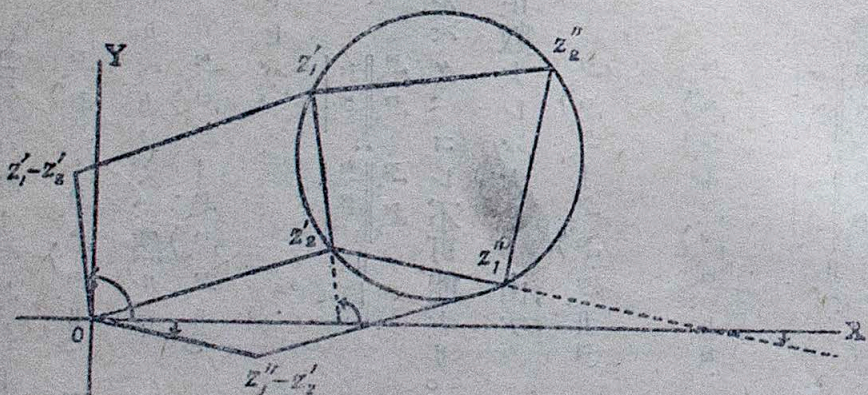
コレヨリ

$$\frac{z_2' - z_1'}{z_2'' - z_1''} = -\frac{z_2' - z_1'}{z_2'' - z_1''},$$

$$\frac{z_1' - z_2'}{z_1'' - z_2''} : \frac{z_1' - z_2'}{z_1'' - z_2''} = -1.$$

即チ

第二十圖



コノ左邊ノ式ヲガウスノ平面 E ノ上ニ於ケル四點 z_1', z_1'', z_2', z_2'' ノ複比ト稱ス、(めーびうす Möbius, 1853年)。而シテ複比ガ「一」ニ等シキトキハ、ソノ四點ヲ調和ナリトイフ。

故ニニツノ方程式ノ聯立不變式ガ零トナルコトハ、ソ

ハ方程式ニヨリテ表ハサルハ、ガウスノ平面上ノ二雙ノ點ガ調和ナルコトヲ意味ス。

サテ平面 E ノ上ニテ z_1, z_2 ヲ表ス點ハ、座標 X, Y ノ原點 O ト z_1 、 z_2 ヲ二ツノ頂點トセル平行四邊形ノ第四ノ頂點ナリ。今 z_2 ヨリ z_1 ニ至ル距離ヲ $|z_1 - z_2|$ ニテ表ハシ、其ノ線分ト X 軸ノ正ノ方向トナ

ス角ヲ $\widehat{z_1 z_2}$ ニテ表ハストキハ

$$z_1' - z_2' = \widehat{z_1 z_2} (\cos \widehat{z_1 z_2}' + i \sin \widehat{z_1 z_2}')$$

同様ニ

$$z_1'' - z_2'' = \widehat{z_1 z_2} (\cos \widehat{z_1 z_2}'' + i \sin \widehat{z_1 z_2}'')$$

由テ

$$\frac{z_1' - z_2'}{z_1' - z_2''} = \frac{\widehat{z_1 z_2}' (\cos \widehat{z_1 z_2}' + i \sin \widehat{z_1 z_2}')} {\widehat{z_1 z_2}'' (\cos \widehat{z_1 z_2}'' + i \sin \widehat{z_1 z_2}'')} \\ = \frac{\widehat{z_1 z_2}'}{\widehat{z_1 z_2}''} (\cos \widehat{z_1 z_2}' + i \sin \widehat{z_1 z_2}') \cdot \frac{1}{\cos \widehat{z_1 z_2}'' + i \sin \widehat{z_1 z_2}''}$$

同様ニ

$$\frac{z_1' - z_2'}{z_1' - z_2''} = \frac{\widehat{z_1 z_2}'}{\widehat{z_1 z_2}''} \cos \widehat{z_1 z_2}' + i \sin \widehat{z_1 z_2}'$$

故ニ

$$\frac{z_1' - z_2'}{z_1' - z_2''} : \frac{z_1'' - z_2''}{z_1'' - z_2'} = \frac{\widehat{z_1 z_2}'}{\widehat{z_1 z_2}''} \cos \widehat{z_1 z_2}' + i \sin \widehat{z_1 z_2}' : \frac{\widehat{z_1 z_2}''}{\widehat{z_1 z_2}'} \cos \widehat{z_1 z_2}'' + i \sin \widehat{z_1 z_2}'' \\ = \cos(\widehat{z_1 z_2}' - \widehat{z_1 z_2}'') + i \sin(\widehat{z_1 z_2}' - \widehat{z_1 z_2}'')$$

然ルニ聯立不變式ガ零ナル爲メニハ

$$\frac{z_1' - z_2'}{z_1' - z_2''} : \frac{z_1'' - z_2''}{z_1'' - z_2'} = -1$$

ナルヲ要ス、從テ

$$\sin \widehat{z_1 z_2}' - \widehat{z_1 z_2}'' = 0 \quad \text{又ハ} \quad \widehat{z_1 z_2}' = \widehat{z_1 z_2}''$$

即チ

$$\widehat{z_1 z_2}' - \widehat{z_1 z_2}'' = 0 \quad \text{又ハ} \quad \widehat{z_1 z_2}' = \widehat{z_1 z_2}''$$

ナラザルヘカラズ、然ルニ

$$\frac{z_1' z_2'}{z_1'' z_2''} : \frac{z_1' z_2''}{z_1'' z_2'} = -1$$

トナルヘク、コレ不可能ナリ。何トナレバ線分 $\widehat{z_1 z_2}'$ 等ハ皆正數ナレバナリ。由テ

$$\widehat{z_1 z_2}' - \widehat{z_1 z_2}'' = \pi$$

或ハ

$$\widehat{z_1 z_2}' + \widehat{z_1 z_2}'' = \pi$$

從テ

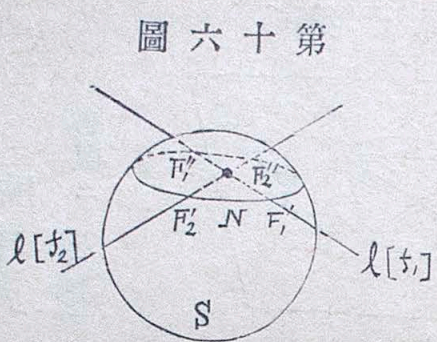
$$\frac{z_1' z_2'}{z_1'' z_2''} : \frac{z_1' z_2''}{z_1'' z_2'} = 1$$

(II)

(I) ヨリ四ツノ點 z_1', z_1'', z_2', z_2'' ガ同一圓周Mノ上ニアルコトヲ知ル。而シテ圓周上ノ四點ノ複比ハ此等ノ點ヲ頂點トスル四邊形ノ相對スル邊ノ積ノ比ニ等シ(るーしえ、こんぶるーす、演習問題333)。故ニ(II)ヨリ次ノ結果ヲ得。四點 z_1', z_1'', z_2', z_2'' ハ圓周Mノ上ニ於テ調和列點ヲナス

(めーびうす)。

次ニ直線ニヨル表示ニ移ラン、かうすノ平面Eヲ球面Sニ描射影スレバ、圓Mハ球面Sノ上ノ圓Nニ變ズ。然ルニ z_1', z_1'', z_2', z_2'' ハ圓周Mノ上ニ於テ調和列點ヲナス故、



圖六十第

其等ノ點ノ射影 F_1', F_1'', F_2', F_2'' ハ圓周Nノ上ニ於テ調和列點ヲナス。故ニ第5款IIノ論法ヲ其ノ儘適用スレバ、 $[f_1]$ ト $[f_2]$ トハ圓Nニ關シテ共軛ナリ。換言スレバ二次式ノ聯立不變式ガ零トナルコトハ、二直線

$[f_1]$ ト $[f_2]$ トガ相交リ、且ツ其ノ二直線ハ定ムル平面上ノ圓Nニ關シテ互ニ共軛ナルコトヲ意味ス。

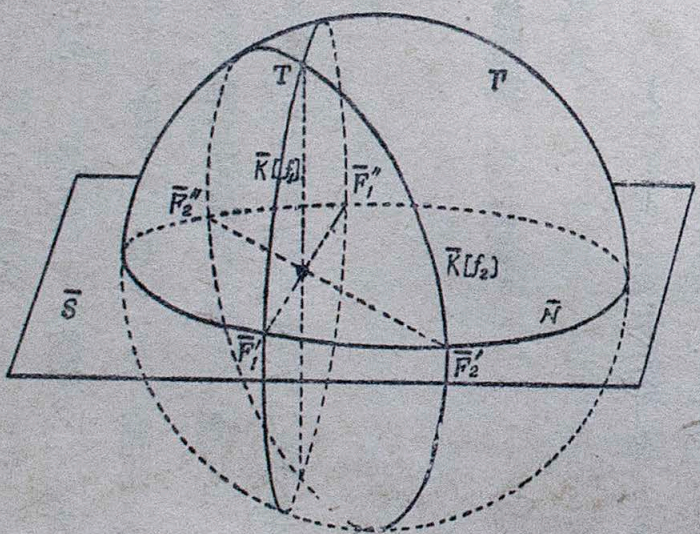
16. 聯立不變式(圓ニヨル表示)

コレヨリ圓ニヨル表示ニヨリテ $H(f_1, f_2) = 0$ ヲ解釋セ

平面E上ノ圖形ヲ球面Sニ描射影スレバ、 F_1, F_1', F_2, F_2'

〇二次方程式ノ幾何學的理論ニ就テ

圖七十第



ハ圓周Nノ上ニ於テ調和列點ヲナス。今 F_1', F_1'', F_2', F_2'' ニ於テ球面Sニ直交スル圓 $K[f_1]$ トシ、 F_2', F_2'' ニ於テSニ直交スル圓 $K[f_2]$ トス。然ルトキ球面Sノ上ノ一點ヲ中心トシテ反轉スレバ、球面Sハ一ツノ平面Sトナリ、圓NハS上ノ圓Nトナリ、 F_1', F_1'', F_2', F_2'' ハ圓周Nノ上ニ於ケル調和列點 F_1', F_1'', F_2', F_2'' トナル。

然ルニ $K[f_1]$ 、

$K[f_2]$ ハ夫々

F_1', F_1'', F_2', F_2'' ニ

於テ平面Sニ

直交スル圓

$K[f_1]$ 、 $K[f_2]$ ニ

變ズルヲ以テ、

$K[f_1]$ 、 F_1', F_1''

ヲ直徑トシ平面

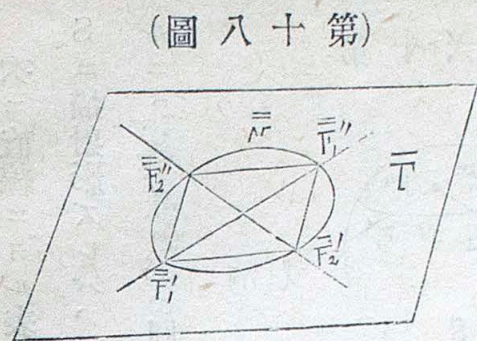
Sニ垂直ナル

平面Sト圓S

ヲ大圓トシテ其ノ上ニ立ツ球面Tトノ交リナリ。同様ニ

$K(f_1), K(f_2)$ 二直線トシ平面 S ニ垂直ナル平面 S_2 ト
球面 T トノ交リナリ。シカルニ直線 $F_1'F_1'', F_2'F_2''$ トハ
相交ル故、 S_1, S_2 從テ $K(f_1), K(f_2)$ トハ相交ル。コ
ノ二圓ノ交點ヲ T トセン。

次ニ T ヲ中心トシテ此圖形ヲ反轉スレバ、球面 T ハ一
ツノ平面 T トナリ、 N ハ T ノ上ノ一圓周 N トナル。又
 $K(f_1), K(f_2)$ ニ於テ N ト直交シ且ツ T ヲ過ギル故、
 $K(f_1), K(f_2)$ ハ二點 F_1', F_1'' ニ於テ N ト直交スル直線 $K(f_1)$ ト
ナル。同様ニ $K(f_2)$ ハ二點 F_2', F_2'' ニ於テ N ト直交ス
ル直線 $K(f_2)$ トナル。



(圖八十第)

ノ直徑ナル故

サテ F_1', F_1'', F_2', F_2'' ハ圓周
 N ノ上ニ於テ調和ナル故、
 F_1', F_1'', F_2', F_2'' ハ圓周 N ノ上
ニ於テ調和ナリ、由テ

$$\frac{F_1'F_1''}{F_1'F_2''} : \frac{F_1'F_2''}{F_1'F_1''} = 1.$$

シカルニ $F_1'F_1'', F_2'F_2''$ ハ圓 N

$$\frac{F_1'F_2''}{F_1'F_1''} = \frac{F_1'F_1''}{F_1'F_2''}, \quad \frac{F_1'F_2''}{F_1'F_1''} = \frac{F_2'F_2''}{F_2'F_1''}.$$

故ニ

$$F_1'F_2'' = F_2'F_1''.$$

由テ $F_1'F_1'', F_2'F_2''$ トハ直交ス。換言スレバ $K(f_1)$ ト
 $K(f_2)$ トハ直交ス。斯クテ次ノ結果ニ到達ス。

f_1, f_2 ノ聯立不變式ガ零ナル爲メニ必要ニシテ且ツ十
分ナル條件ハ、 $K(f_1), K(f_2)$ トガ互ニ直角ニ交ルコト
ナリ。

17. 終結式、ヤコビ式

終結式

$$R(f_1, f_2) \equiv 4\Delta(f_1)\Delta(f_2) - (E^2 f_1 f_2)$$

ガ零トナレバ、二直線 $K(f_1), K(f_2)$ ハ定球面 S ノ上ノ一
點ニ於テ交リ、又二圓 $K(f_1), K(f_2)$ ハ定球面 S ノ上ノ
一點ニ於テ相切ス。マタ

$$\textcircled{a} (f_1, J(f_1 f_2)) = 0, \quad \textcircled{b} (f_2, J(f_1 f_2)) = 0$$

ナル故、ヤコビ式 $J(f_1, f_2) = 0$ ニヨリテ表サルル直線ヲ
 $K(f_1, f_2)$ トスルハ、 $K(f_1), K(f_2)$ ト相交リ且ツ
共軌ナリ。又 $K(f_1, f_2)$ ハ $K(f_1)$ ト相交リ且ツ共軌ナリ

(第15款)

又 $J(f_1, f_2) = 0$ ニヨリテ表サルル圓ヲ $K(J(f_1, f_2))$ トス
レバ、 $K(J(f_1, f_2))$ ハ同時ニ $K(f_1)$ 及ビ $K(f_2)$ ト直交ス
(第16款)。

18. ろばちえふすきー空間幾何學

I. 吾人ハ第9款ト同様ニ、直線ニヨル表示ニ於テ、
ろばちえふすきー幾何學ノ考察ヲ導入セン。(ろーしえー
こんぶるーす、第二卷第803頁)。

定球 S ヲ絕對球ト見做シ、ソノ内部ノ圖形ノミヲ考ヘ
ン。而シテ距離及ビ角ノ大サヲ測ルニハ射影的測定法ヲ
用フベシ。即チ二點 A, B ヲ過ギル直線ガ定球 S ト交ル
點ヲ M, N トスレバ、四點ノ複比 $(ABMN)$ ノ對數ニ或ル
常數ヲ乗ジタルモノヲ二點 A, B 間ノ距離トイフ。

又相交ル二平面ノナス角ノ大サトハ、其ノ平面ノ交リ
ヲ過ギリテ定球 S ニ二ツノ(虚ナル)切平面ヲ引キ、コノ
四平面ノナス複比ノ對數ニ $\frac{1}{2\sqrt{-1}}$ ヲ乗ジタルモノヲ云
フ。又相交ル二直線ノナス角ノ大サトハ、ソノ二直線ニ

ヨリテ定メラルル平面ト定球 S トノ交リナル圓ニ、二直
線ノ交點ヲ過ギル二ツノ虚切線ヲ引キ、ソノ二直線ト切
線トガナス複比ニ $\frac{1}{2\sqrt{-1}}$ ヲ乗ジタルモノヲ云フ。

然ルトキハ第9款ト同様ニシテ次ノ結果ヲ得。

二次方程式ノ判別式ガ零トナルコトハ、直線ガ無窮遠
ニアリコトヲ意味ス。

二ツノ二次方程式ノ終結式ガ零トナルコトハ、二ツノ
直線ガ平行ナルコトヲ意味ス。

二ツノ二次方程式ノ聯立不變式ガ零トナルコトハ、二
ツノ直線ガ直角ニ相交ルコトヲ意味ス。

二ツノ二次式ノヤコビ式ヲ零ト置キタル二次方程式
ハ二ツノ直線ヲ同様ニ直角ニ截ル直線ヲ表ハス。

II. 次ニ第10款ト同様ニ、圓ニヨル表示ニ於テろばち
えふすきー幾何學ノ考察ヲ導入セン。(ろーしえーこんぶ
るーす、第二卷第794頁)。

定球 S ヲ絕對球ト見做シ、其ノ球ニ直交スル圓周ノ球
 S ノ内部ニアル部分ノ弧ヲ直線ト見做スベシ。

コノ場合ニ角ノ大サヲ測ルニハ普通ノ意味ノモノヲ以

テスベキモ、二點間ノ距離ヲ測ルニハ次ノ方法ニヨラザルベカラズ。即チ二點 A, B ヲ過ギリテ定球 S ニ直交スル圓周ヲ畫キ、ソノ圓周ト定球 S トノ交點ヲ M, N トスレバ、ソノ圓周上ノ四點 A, B, M, N ノ複比ノ對數ニ或ル常數ヲ乗ジタルモノヲ以テ、二點 A, B 間ノ距離トバシ。

然ルトキハ二次方程式ノ性質ニ關シテ、 I ノ場合ト全ク同一ノ結果ヲ得ベシ。

第三節 三ツノ二次方程式

19. ばすかるノ定理ノ擴張

二ツノ二次式ノ聯立不變式ガ零トコトハ、ろばちえふすきー平面幾何學ニ於テハ二直線ガ直角ニ交ルコトヲ意味シ、ろばちえふすきー空間幾何學ニ於テモ亦二直線ガ直角ニ交ルコトヲ意味ス。

然ルニ第13款 II ニヨレバ、ろばちえふすきー平面ニ於テハ、絶對圓ニ内接スル六邊形ノ對邊ノ三ツノ共通垂線ハ、一ツノ垂線ヲ共有ス。コノ定理ハ全ク之ヲ數個ノ二

次方程式ト其等ノ中ノ或ル二ツツ、ノ間ノ聯立不變式ヲ零トオケル關係式トニヨリテ、解析的ニ表ハシ得ベキ性質ノモノナリ。由テ若シ此等ノ二次方程式ト關係式トヲろばちえふすきー空間幾何學ノ語ニテ説述スレバ、次ノ結果ヲ得ルコト明カナリ。

絶對球ニ内接スル六邊形ノ對邊ハ共通垂線ハ、一ツノ垂線ヲ共有ス。(くらゐん第二論文)。

コノ定理ハ普通ノゆゑくりつど空間幾何學ニ於ケル、直線ニヨル表示又ハ圓ニヨル表示ヲ用ヒテ述ブルコトヲ得ベシ。コハ讀者ノ演習ニ讓ラン。

最後ノ注意

I . 第3款ノ思想ヲ發展セシメ、又ハ他ノ方面ヨリ觀察シ且ツ之ヲ擴張セルモノニ就テハ、へっせノ第二論文ノ外

Burnside and Panton, Theory of equations, 第二版 (1899年)、第411頁以下。(其ノ大要ハさゝもん、卷末ノ注意第三ノ終ニアリ)。

Clebsch-Lindemann, Vorlesungen über Geometrie, Bd.

I , Teil I , (2. Lieferung, 1910年)、第534頁以下。

Fr. Meyer, Apolarität und rationale Curven (1883年)ヲ見ヨ。

II . 第2款及ビ第4款ニ於テ、點 $P(f)$ ト直線 $l(f)$ トハ圓 C ニ關シテ互ニ相反ナリ。直線 $l(f)$ ト圓 $K(f)$ トノ關係ニ就テハ、

Wellstein, Archiv. d. Mathematik u. Physik, 第三輯第

十七卷 (1910年)

及ビ第13款ノ最後ニ引用セル拙論ヲ見ヨ。

III . 第7款ノ結果ヲ直線群ノ微分幾何學ニ應用セルモノニ就テハ、拙論

On the differential geometry of a line congruence (東

北帝國大學理科報告、第一輯第五卷、1916年)

ヲ見ヨ。

IV . 第13款ばすかるノ定理ノ不變式論的計算ニヨル證明ニ就テハ、 I ニ掲ゲタルくれぶつしゆーりんでまんの書第539頁ヲ見ヨ。

V . 第15款ニ於ケル球面上ノ四點 F_1, F_1', F_2, F_2' ハ

一平面上ニアリテ其ノ複比ハ -1 ニ等シ。一般ニ球面上ノ四點ノ複比ニ就テハ、ろえできんどノ論文ヲ見ヨ。更ニ一般ニ二次曲面上ノ四點ノ複比ニ就テハ

Study, Betrachtungen über Doppelverhältnisse (Leipziger Berichte, 第四十八卷、1896年)ヲ見ヨ。

VI . III ノ二次式 f_1, f_2, f_3 ト其ノ間ノヤコビ式 $J(f_1, f_2, f_3)$ トノ判別式、聯立不變式、終結式ヲ用ヒ

テ、球面三角法ヲ簡潔ニスルコトヲ得。之ニ就テハ

Stephanos, Sur la relation qui existe entre le problème de la trigonométrie sphérique et la théorie du système de trois formes quadratiques binaires (Bulletin de la Soc. math. de France, 第十卷、1882年)

Klein, Vorlesungen über die hypergeometrische Funktion (1894年)

Schilling, Beiträge zur geometrischen Theorie der Schwarzschen s-Funktion (Dissert, Leipzig, 1894年)又ハ Math. Ann., 第四十四卷、1894年

ヲ参照セヨ。(完)